

私たちの町の遺跡 戸坂遺跡

■「弥生時代の鏡が出土 戸坂遺跡」

立田山断層によって急落する花岡山北斜面から井芹川に突き出た丘陵一帯が戸坂遺跡で、今は住宅地になっています。今の井芹川は昭和5年からの河川改修工事で開削されたもので、以前の戸坂丘陵は対岸の千原台につながっていました。この昭和5年に遺跡が発見されていますが、古くより盛んだった壁土用の採土工事現場での発見で、地元高校生によって弥生時代の鏡も見つかっています。

昭和59年、平成10・18年の三回、発掘調査が行われました。縄文時代から平安時代までの遺跡ですが、特に今から1900年ほど前の弥生時代後期、戸坂には栄えた村がありました。当時、銅製の武器や祭具はたいへん貴重なもので、権力の象徴でもありました。戸坂遺跡からは銅鏡2面、銅鏃(やじり)1個、ほかに鉄製品や首飾りも出土しており、かなりの力をもった村だったことがわかります。

銅鏡(下写真)は現在緑色にさびていますが、当時は顔が映るほどに輝いていたはずで、直径10cm弱と小さなものですが、王や巫女の手中で光り輝く鏡に、人々は畏れをいだいたことでしょう。そのため鏡が権力の証となり、限られた権力者のみが持つことができたのです。

(熊本市文化財課主任文化財保護主事 網田龍生氏より)

昭和59年出土の銅鏡

弥生時代の土器

